



上下水道局

要求総額 95,948百万円

(対前年度 +4.5%)

収益的収入 50,784 百万円

収益的支出 52,141 百万円

差引 ▲1,357 百万円

単年度資金収支 ▲2,400 百万円

【令和6年度 予算要求の方針】

上下水道局では、令和3年3月に策定した「上下水道事業基本計画 2030（計画期間：令和3～12年度）」及び「上下水道事業中期経営計画 2025（計画期間：令和3～7年度）」に基づき、着実に事業を推進するとともに、経費節減や増収対策など、経営基盤の強化に努め、「お客さまに信頼される上下水道」を目指します。

具体的には、上下水道施設の長寿命化や改築・更新、災害対策などに取り組むとともに、本市の持つ高い上下水道技術を国内外で活用し、上下水道事業の発展的広域化や国際貢献の推進に取り組めます。

(単位：百万円)

	予算要求額		収益的収支			単年度 資金収支
		前年度比	収入	支出	差引	
水道事業	35,781	3.7%	20,144	21,094	▲950	▲1,210
水道用水供給事業	1,565	28.6%	903	898	5	17
上水道事業	37,346	4.5%	21,047	21,992	▲945	▲1,193
工業用水道事業	4,587	18.7%	1,989	1,916	73	▲663
下水道事業	54,015	3.4%	27,748	28,233	▲485	▲544
計	95,948	4.5%	50,784	52,141	▲1,357	▲2,400

【令和6年度 予算要求の基本的な考え方】

〔新〕：新規事業、〔拡〕：拡充事業

上下水道施設の強靱化 要求額 22,657百万円 (対前年度 +12.7%)

長期的な観点から施設規模や機能の最適化を図りながら、更新時期を迎える上下水道施設の長寿命化、改築・更新に取り組むとともに、豪雨や地震といった災害に強い上下水道施設の整備などを進め、市民の生活を守ります。

- ・上下水道施設の長寿命化と改築・更新
- ・豪雨対策の拡充・強化
- ・震災対策の拡充・強化
- ・危機管理体制の充実・強化

環境負荷の低減 要求額 439百万円 (対前年度 ▲74.7%)

水環境の向上や、資源の有効利用などによる環境負荷低減を推進します。

- ・水質監視強化
- ・省エネルギーの推進
- ・〔新〕下水道資源の有効活用

国内外への貢献 要求額 1,596百万円 (対前年度 +12.0%)

北九州都市圏域の中核都市として、上下水道事業の発展的広域化や、SDGsの達成に寄与する国際貢献の取り組みを推進し、併せて、本市職員の技術力・実務能力の向上も図ります。

- ・多様な広域連携の推進
- ・外郭団体等との連携強化
- ・海外事業の展開

DXの推進 要求額 12百万円 (対前年度 ▲68.9%)

- ・衛星画像とAIを活用した漏水調査
- ・工事立会受付WEBシステムの活用

※ 公開時点での予算要求の内容であり、令和6年度に実施することが確定しているものではありません。

令和6年度 上下水道局予算要求方針

1 令和6年度上下水道局予算要求総括及び方針

(1) 令和6年度上下水道局予算要求総括

令和6年度要求総額	95,947,567千円
(令和5年度予算額	91,831,030千円)
前年度比	+4.5%

【上水道事業会計】

〈水道事業〉

令和6年度要求総額	35,780,994千円
(令和5年度予算額	34,505,290千円)
前年度比	1,275,704千円 (+3.7%)

〈水道用水供給事業〉

令和6年度要求総額	1,564,920千円
(令和5年度予算額	1,217,050千円)
前年度比	347,870千円 (+28.6%)

【工業用水道事業会計】

令和6年度要求総額	4,587,123千円
(令和5年度予算額	3,866,050千円)
前年度比	721,073千円 (+18.7%)

【下水道事業会計】

令和6年度要求総額	54,014,530千円
(令和5年度予算額	52,242,640千円)
前年度比	1,771,890千円 (+3.4%)

(2) 令和6年度上下水道局予算要求の方針

上下水道局では、令和3年3月に策定した「上下水道事業基本計画 2030（計画期間：令和3～12年度）」及び「上下水道事業中期経営計画 2025（計画期間：令和3～7年度）」に基づき、着実に事業を推進するとともに、経費節減や増収対策など、経営基盤の強化に努め、「お客さまに信頼される上下水道」を目指します。

具体的には、上下水道施設の長寿命化や改築・更新、災害対策などに取り組むとともに、本市の持つ高い上下水道技術を国内外で活用し、上下水道事業の発展的広域化や国際貢献の推進に取り組めます。

■重点的に取り組むもの

- 上下水道施設の強靱化
 - ・ 上下水道施設の長寿命化と改築・更新
- 環境負荷の低減
 - ・ 豪雨対策の拡充・強化
- 国内外への貢献
 - ・ 震災対策の拡充・強化
 - ・ 危機管理体制の充実・強化
- DXの推進
 - ・ AIを活用した水道管の劣化診断
 - ・ 衛星画像とAIを活用した漏水調査 など

【上下水道事業の収支状況等】

(単位：百万円)

会計名	収益的 収支	単年度 資金収支	累積 資金剰余	投資的経費		企業債 残高
					前年度比	
水道	▲ 950	▲ 1,210	1,679	9,041	0.2%	63,759
用水供給	5	17	101	268	301.1%	3,139
上水道	▲ 945	▲ 1,193	1,780	9,309	2.4%	66,898
工業用水道	73	▲ 663	937	2,252	49.4%	3,120
下水道	▲ 485	▲ 544	2,359	13,231	8.8%	141,772
上下水道局 合計	▲ 1,357	▲ 2,400	5,076	24,792	8.9%	211,790

2 重点的に取り組みを行いたい主なもの

(1) 「稼げるまち」の実現

・ 響灘地区等の需要増に伴う工業用水道施設整備 1,038,400千円

響灘地区における工業用水の需要が増加するため、令和7年度供用開始を目指し、令和4～6年度で本城浄水場内の施設整備及び配水管φ900の整備を約1,000m実施します。

・ インフラシステムの輸出による海外ビジネス展開 172,771千円

アジアを中心とした国や地域における国際技術協力をビジネスの視点を取り入れるため、国際技術協力を通じた相手国との信頼関係を維持し、また、北九州市海外水ビジネス推進協議会の会員企業との情報共有を図り、官民が連携した海外水ビジネスを展開します。

※会員企業の累計受注実績は、平成22年以降、上水道事業・下水道事業の合算で約240億円

・ **新規**行橋市・苅田町への水道用水供給事業の拡大等による広域連携の推進 203,900千円

行橋市・苅田町への水道用水供給の拡大及び古賀市・宗像地区事務組合への供給量の増量により、各事業者の経営基盤強化を図ります。

※本市水道事業の固定費負担軽減額は、令和18年度以降、年間約1.9億円

・ **新規**下水道資源の有効活用 30,000千円

下水汚泥の肥料化や下水道処理水の活用の検討など、下水道資源の有効活用の取組を進めます。

(2) 「彩りあるまち」の実現

該当なし

(3) 「安らぐまち」の実現

・ 上下水道の地震等対策推進事業 9,669,004千円

地震等の災害被害を最小限にし、早期に機能回復が図れる災害に強いライフラインを構築するため、老朽化した施設の耐震改修を行います。

・ 浸水対策事業の推進 2,827,986千円

近年の集中的な豪雨に起因する浸水被害を最小化し、浸水に対する安全度の向上を図るため、雨水管等の整備を行います。

(4) その他の取り組み

ア 上下水道施設の強靱化

長期的な観点から施設規模や機能の最適化を図りながら、更新時期を迎える上下水道施設の長寿命化、改築・更新に取り組むとともに、豪雨や地震といった災害に強い上下水道施設の整備などを進め、市民の生活を守ります。

■上下水道施設の長寿命化と改築・更新 15,566,043千円

上下水道事業を持続していくため、長期的な視点に立って効率的・計画的な上下水道施設の改築更新を進めます。

【アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新】

- ・配水管等の更新 5,529,200千円
配水管更新 (L=30.0km)、導送水管更新 (L=0.2km)
- ・浄水施設の更新 1,160,206千円
穴生浄水場東西系受配電設備電気計装工事 など
- ・工業用水道施設の改築更新 《一部再掲》 842,359千円
北九州市工業用水道配水管布設替工事 (6-1工区) など
- ・下水道施設の改築更新 5,370,941千円
日明浄化センター特高受変電設備改良 など

【上下水道施設の規模の最適化】

- ・配水ブロックの改善 49,300千円
尾倉、黒川配水池の統廃合
- ・下水道施設の再編 1,015,000千円
若松ポンプ場の整備、皇后崎浄化センターの再構築 など

■豪雨対策の拡充・強化《再掲》 2,827,986千円

近年、局地化、集中化する豪雨から市民の生活を守るため、効果的に施設整備を進めていきます。

- ・浸水被害の最小化 2,750,000千円
重点整備地区 (社ノ木、沼本町、上葛原二丁目) の整備 など

■震災対策の拡充・強化《再掲》 9,669,004千円

大規模な地震が発生した場合においても、水道の安全で安定した給水、下水道の最低限の水処理機能を維持するため、防災・減災の観点から、施設の耐震化やバックアップ機能の強化などを図っていきます。

- ・浄水場・配水池の耐震化 295,290 千円
 小熊野第一配水池の耐震化工事 など
- ・水道管路の耐震化《再掲》 5,529,200 千円
 配水管等の更新
- ・浄化センター、ポンプ場の耐震化 473,000 千円
 城野ポンプ場耐震補強工事 など
- ・下水道管渠の耐震化 3,165,224 千円
 日明遮集幹線、東二島北湊主要幹線管渠更生 など
- ・バックアップ機能の強化 206,290 千円
 八重洲～城野分岐送水管整備 など

■危機管理体制の充実・強化 272,785 千円

気候変動の影響による自然災害の増加などさまざまな災害リスクに備え、緊急時においても、安定給水、安定処理ができる体制を確保していきます。

- ・停電対策 92,785 千円
 森下分岐非常用発電設備更新電気計装工事
- ・災害時における機能確保の推進 26,000 千円
 応急給水施設整備工事、マンホールトイレの整備
- ・自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実 154,000 千円
 内水浸水想定区域図の拡充、雨水タンク助成事業

イ 環境負荷の低減

水環境の向上や、資源の有効利用などによる環境負荷低減を推進します。

■水質監視強化 34,396 千円

下水道施設の保全や浄化センターの安定的な運転を目的として、下水処理に影響を及ぼす物質の監視強化を図ります。

■省エネルギーの推進 367,059 千円

電気使用量及び二酸化炭素排出量の削減を図るため、ポンプ設備の適正化などにより省エネルギー対策を実施します。

- ・穴生浄水場東西系送水ポンプ更新工事 など

■新規下水道資源の有効活用《再掲》 30,000 千円

下水汚泥の肥料化や下水道処理水の活用の検討など、下水道資源の有効活用の取組を進めます。

ウ 国内外への貢献

北九州都市圏域の中核都市として、上下水道事業の発展的広域化や、SDGsの達成に寄与する国際貢献の取組を推進し、併せて、本市職員の技術力・実務能力の向上も図ります。

■多様な広域連携の推進《一部再掲》 207,869千円

近隣自治体との連携を強化し、双方にメリットを享受できる広域連携の具体化に向けた取組を推進していきます。

また、行橋市・苅田町への水道用水供給の拡大及び古賀市・宗像地区事務組合への供給量の増量により、各事業者の経営基盤強化を図ります。

■外郭団体等との連携強化 1,215,621千円

外郭団体（(株)北九州ウォーターサービス）との連携を強化するとともに民間事業者の活用を図り、発展的広域化を推進します。

・宗像地区水道施設維持管理等業務委託

■海外事業の展開《再掲》 172,771千円

SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」の達成へ寄与するため、上下水道の国際技術協力に取り組みます。

さらに、協力関係で培った信頼や人的関係を基に、「北九州市海外水ビジネス推進協議会」との官民連携により、本市経済の活性化に繋げるため、海外水ビジネスを推進していきます。

エ DXの推進

■衛星画像とAIを活用した漏水調査 9,900千円

人工衛星から照射されるマイクロ波で、漏水箇所を判定する技術を用いた漏水調査の実証実験を行います。

■工事立会受付WEBシステムの活用 2,244千円

工事施工前の申請手続きにおいて、立会受付WEBシステムを活用し、道路掘削事業者とインフラ事業者（電気・ガス・水道等）が工事情報を共有することで、作業の効率化を図ります。

3 令和6年度予算編成に向けた事務事業の自己点検状況

令和6年度予算編成と同時並行的に取り組んでいる自己点検の内容については、予算案の決定に向け見直しを検討しているところです。

現時点で、見直しの検討を行っている事業の例としては、以下のものがあります。

(1) 視点1：市民のニーズや社会経済情勢の変化への対応

(例)・下水道事業会計繰入金

(下水道使用料の減免分(生活保護世帯等))